令和７年度（２０２５年度）
社会福祉法人いなほ福祉会　平見ハイツ　事業報告

１．利用登録者数と利用実績（令和８年３月末）

【利用登録者数】１０名　（男性　５名・女性　５名）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365 日
延利用人数	285	279	281	292	259	278	289	261	277	262	259	289	3,311 人
1日平均	9.5	9.0	9.4	9.4	8.6	9.3	9.3	8.7	8.9	8.5	9.3	9.3	9.1 人

令和６年度　延利用人数3，091人　１日平均8.5人

<障害支援区分の分布>

区分６	区分５	区分４	区分３	区分２
１名	３名	２名	２名	２名

２．職員体制（令和８年３月末）

職　　種	定　数	現　員
管　理　者	1	1
サービス管理責任者	1	1
生活支援員	１．５	7
世話人	１．４	9
計	４．９名	１８名

３．今年度の重点方針

①　入居者一人一人の人権を守り本人主体の生活が送れるよう、職員の人権意識を高めます。

・職員会議での学習や法人研修会で人権について学び、福祉職員としての資質向上に努めます。

職員による「不適切な支援」が２月に発生しました。これまでも職員会議での学習や法人研修会等を通して、人権について学び、福祉職員としての資質向上に取り組んできましたが、結果として問題を繰り返してしまうこととなりました。

利用者一人ひとりの人権を尊重し、本人主体の生活を守っていくためには、不適切な支援を二度と繰り返さないという意識を全職員で共有し続けることが重要です。今後も継続して学びや振り返りを行いながら、職員一人ひとりの人権意識と支援の質の向上に取り組んでいくことが課題となります。

②　入居者の希望や思いを察知できるよう努め、ハイツで安心して豊かな生活が送れるよう支援を行います。

家族や作業所等からの情報を職員間で共有し、生活の中での小さな変化を見逃さないようにしながら、入居者の思いをくみ取ることを大切に支援しました。

③　入居者同士が一緒に暮らす仲間と思い支え合い、帰省しなくても安心して暮らせる支援の充実をめざします。

休日に帰省することが習慣となっている方についても、安心してハイツで休日を過ごせ

るよう、必要に応じて余暇支援等を行いました。また、食事の配膳や片付け、余暇の過ごし方等、入居者が受け身ではなく生活の主体者として暮らしていけるよう、支援者自身が支援のあり方を考える機会を持ちました。

④　成人分野の利用者家族に向けた生活ニーズ調査を行います。

１１月に調査を実施し、いなほ作業所２８名、ワークショップゆう２２名から回答がありました。調査の結果、将来的にグループホームでの生活を希望している方が多いことがわかり、将来への不安や地域で安心して暮らせる環境へのニーズが高いことを把握することができました。

⑤地域連携推進会議を開設します

９月２５日に第１回地域連携推進会議を開催しました。

・構成委員：太地町平見地区１名、合同会社ソルジス１名（成年後見人・利用者代表）
いなほ福祉会評議員１名、平見ハイツ入居者家族１名、平見ハイツ職員２名

４．入居者への提供サービス

（１）〔個別支援計画〕

①本人や家族の意向を聞きながら、「個別支援計画」を策定し、計画の実施、並びに適時見直しを行いました。

（２）〔生活支援〕

入居者の豊かな暮らしに繋がることを大切にしながら支援を行いました。

①食事の提供（朝食と夕食）

・健康を考えた食事提供、必要に応じた昼食の提供
・食堂、台所、食器等の衛生保持と管理、献立記録

※偏食の入居者への食事を工夫しながら行いました。

※自分で配膳する方法を取り入れ、朝食内容の見直しや充実、パンやごはん食を選べるようにしました。

②金銭出納にかかる支援

・入居者負担金（利用料・入居費）の管理
・金銭出納帳の管理
・入居者個別の金銭管理の対応

③健康にかかる支援

・服薬、通院、受診等の管理、相談、助言、同行
・規則正しい生活、清潔、衛生面についての相談、助言、支援
・朝、夕の健康状態の確認

※口腔ケアの大切さについて、一部の利用者のみへの介助磨き対応にとどまっているため、予防につなげていけるよう、介助磨きの必要性に対する職員の意識向上と継続的な取り組みが必要である。

④日常生活場面における支援

・福祉サービス事業所、交友関係、家族との関係、社会生活等にかかる相談、助言、連絡、調

整、支援
⑤行政機関等の手続きにかかる相談、助言、連絡、調整、支援
⑥職場訪問や余暇活動への相談、助言、連絡、調整、支援
⑦緊急時（事故・病気等）の対応
⑧地域行事への参加と住民との交流をはかる
⑨その他
※ハイツでの生活が豊かになるよう、休日の過ごし方等、生活を楽しむ工夫を行いました。
みんなで楽しむ企画として、花火大会・バーベキュー大会・クリスマス会をしました。

（3）〔入居者自治の育成〕
①入居者の自治や余暇等への各種支援
・日常の生活の中で職員が仲立ちとなりながら、入居者同士が自然に関わり合い交流を深められる機会を大切にしました。
・夕食後の準備や片づけを可能な範囲で入居者自身が行うことで、仲間同士で助け合う姿や、食器洗いの順番を待つ間の自然な会話や交流が見られるようになり、日常的な関わりの広がりにつながりました。

5．緊急時の対応
緊急時の対応をする案件はありませんでした。

6．事故発生時の対応
事故発生時の対応をする案件はありませんでした。

7．虐待および身体拘束発生状況
身体拘束説明書・同意書作成　1名
【虐待案件】　0件
【不適切支援案件】　1件 世話人による「不適切な支援」に該当する事案が確認されました。
【身体拘束発生案件】0件

8．苦情解決実績報告
苦情の案件はありませんでした。

9．職員（援助者）の援助技術の向上
（1）職員会議の実績報告

・支援職員全体会議	→	12回開催
・運営会議	→	7回開催
・個別支援計画策定会議	→	2回開催

（２）職員研修の実績報告

【内部研修】

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数
５月３１日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修 後日　伝達研修	人権擁護推進委員	１６名 １名
６月１８日	平見ハイツ	虐待防止・人権擁護研修の振り返り	平見ハイツ主任　岡本氏	１１名
７月１６日	平見ハイツ	防災対策について	災害対策委員	１０名
		備蓄品の確認について	災害対策委員	
８月２０日	平見ハイツ	「嘔吐物の処理方法について動画視聴・処理キットの確認」	安全管理感染症対策委員	１３名
８月３０日	いなほ福祉会	通園めだかについて知ろう	通園めだか職員	２名
９月１８日	平見ハイツ	火災報知器の操作について 消火器の使用法について	災害対策委員 消防団団員　南氏	１２名
１０月１６日	平見ハイツ	発電機の操作について	災害対策委員	１０人
１１月２０日	平見ハイツ	きょうされん全国大会（報告） ハイツの実践について	平見ハイツ主任　岡本氏 ワークショップゆう　田中氏	
１２月１７日	平見ハイツ	ＢＣＰ（感染症）について 感染を疑う者が出た場合のシュミレーション訓練	安全管理感染症対策委員	１３名
１月１５日	いなほ福祉会	災害時の医療について	相野谷診療所 森本真之助医師	２名
１月３１日	いなほ福祉会	障害者福祉制度研修 災害時対応のためのエリア別ミーティングについて	合同会社アドバンス　前邦朋氏 災害対策推進員	２名
２月７日	いなほ福祉会	生きにくさと周囲の理解と支援 ～発達に凹凸のある子ども､そしてその大人～	児童発達支援センター「エンジョイウェルヴィレッジ」センター長 志村浩二氏	２名
３月１８日	平見ハイツ	虐待防止・人権擁護学習会	平見ハイツ主任　岡本氏	８名
３月２５日	平見ハイツ	地震災害時のシュミレーション 災害用伝言ダイヤルについて	災害対策委員	１３名

【外部研修】

日　程	主　催	研修内容	講師等	参加人数
７月２６日	通園くじら	発達の連続講座①	つくしんぼ園 発達相談員 山本翔太氏	３名
１０月１７日 １８日	きょうされん	第４８回全国大会ｉｎ奈良 講演「被爆･戦後８０年障害のある人と戦争を考える」 分科会　暮らし・居住	 日本被団協　濱住治郎氏 分科会	１名
１１月２２日	ハロー！ネイバーズプロジェクト	地域で支え合う関係づくりフォーラム	アイウィッシュ（株）小池昭雅氏 （株）あおいけあ　加藤忠相氏	１名

１１月２２日	通園くじら	発達の連続講座②	つくしんぼ園 発達相談員 山本翔太氏	１名
２月２８日	新宮市成年後見サポートセンター	住民向け勉強会 ～終活に向けて大事なこと～	新宮公証役場公証人　三橋豊氏 合同会社アドバンス　前 邦朋氏	１名
２月２８日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	発達セミナー２０２６ ～もしも願いが叶うなら～	全障研　山口　歩氏	１名

１０．その他の業務

（１）法人内利用者の宿泊体験実習の受け入れ

〔令和７年度利用実績〕

日中一時利用　利用者　０名　　延べ利用人数　　０名（０時間）
宿泊体験利用　利用者　２名　　延べ利用人数　　３名（４泊）
作業所職員による宿泊支援回数　　０回（同泊）

※昨年度からショートステイ室を入居者の居室として使用しており、宿泊体験利用の受け入れを休止していました。家族都合による利用受け入れを一部対応しました。